66

ヒポクラテスの木・二〇〇五

——文献、インターネットによる情報の収集

稲松孝思
東京都老人医療センター

ギリシャのコス島にプラタナスの巨樹がある。約二千数百年前に医聖ヒポクラテスがその木の下で、若人に医の道を伝えた故事から、ヒポクラテスの樹と呼ばれ、ヨーロッパで最も聖なる樹と言われている。我が国では、医の倫理を伝えるものとして、この樹の子孫が医学教育の場に植えられ、その数すでに百数十本と言われる。とは言え、現代の医療倫理学において、自己決定権を重んじる立場から「パターナリズムの権化であるヒポクラテスは死んだ！」とも言われる。その一方で、医の倫理の基本としてその精神は今日も重んじられ、医育機関を中心に多くのヒポクラテスにちなむプラタナスの木が植えられている。

一九八〇年頃、東大の緒方富雄先生が、日本におけるヒポクラテスの木の戸籍づくりを手がけ、記録が残っている（けんさ：一四巻二号別冊一九八四）。以来二〇年以上たつが、その後の情報として、恒任直の報告（日医雑誌　一三〇：（六）九九一六、二〇〇三）、インターネット情報などがある。今回、これらの情報を整理し、現状を明らかにすることを試みた。

緒方らの報告には七〇カ所、恒任の報告には二七カ所の記載があり、これにインターネット情報（BIGLOBE、フレッシュアイ、ヤフー）その他の情報を加え、かつ重複分を整理すると、一〇三株の情報を収集できた。これらを整理すると、以下の五系統とその他になる。①一九五五年に山形市の産婦人科医・篠田秀男先生（故人）がコス島の親樹から種を持ち帰り、日本で発芽させ、地元の山形大学、母校の慶応大学などに植えたものとその子孫が一五株、②一九六九年、新潟市の蒲原宏先生（現日本医史学会理事長）が、コス島から種を持ち帰って発芽させたものおよびその子孫が一四株、③一九七二年東大の緒方富雄先生がギリシャから送ってもらった挿し木による緒方株一株、④

一九七八年、日本赤十字社一〇〇周年記念に日赤の小林隆先生がギリシャ赤十字から送られた挿し木の小林株系統が九株、このときに得た実生の小林株（全国の日赤病院を中心に配布）が五一株、⑤一九九〇年の日本・ギリシャ協会株二株、一九九五年の日本・ギリシャ協会株が五株、⑥その他、不明七株であった。

慶応大の篠田株、九大の蒲原株は虫害のため伐採されているが、他にも工事などのため伐採されているものがある。最も新しく植えられたものとして、二〇〇四年に横浜市大六〇周年記念に植えられた、蒲原株から取った実生株がある。

今回の集計では二〇年前の記載のみのものも多く、一部を除いてはその後の消息は確認できていない。これらの現状について現在までに集めた情報について整理し、今後の情報集積にご協力をお願いしたい。

なお、プラタナスの日本名はスズカケノキ（篠懸）であり、日本にスズカケノキが導入された嚆矢は、明治初期の小石川植物園説と、明治三〇年代の目黒の林業試験場説とがある。スズカケノキ属は一属約一〇種あるとされるが、スズカケノキ（Platanus orientalis Linn.）、アメリカスズカケノキ（Platanus occidentalis Linn.）とその合いの子のモミジバスズカケノキ（Platanus acerifolia Wild.）に大別される。この三種は葉の切れ込み、実の付き方、樹皮の性状に差がある。モミジバスズカケノキは、一七世紀に英国の植物収集家の庭に生じた合いの子という説がある。全国の街路樹にはモミジバスズカケノキの子孫が多用されている。ヒポクラテスの樹はスズカケノキであるが、その子孫達にも、形態的に微妙な差異が見られており調査中である。